

黙示録 6 章 12 節-7 章 8 節 スタディーガイド

★ 黙示録 6 章 12 節-14 節

私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。

12 節「大きな地震が起こった。」

この第六の封印の災難が、封印最後の災難です。
第七の封印は、いよいよ巻物の中身を見ることができる封印です。

12 節「太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。」

太陽は日食で、月が月食であるという状況が書かれていますが、同時に起こることは自然界ではあり得ないことです。

■ 大患難時代に 5 回起こる暗闇 ■

1. ヨエル書 2 章 31 節「主の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。」
2. 黙示録 6 章 12 節で、大患難始めの 4 分の 1 の部分で起こる。
3. 黙示録 9 章 2 節で、患難中間に起こる。
4. 黙示録 16 章 10 節で、患難 4 分の 3 の所で起こる。
5. マタイの福音書 24 章 29 節で、最後の暗闇である、ご再臨直前に起こる。

13 節「天の星が地上に落ちた。」

隕石のようなものが落ちて来ている。

13 節「いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。」

隕石（いんせき）がたくさん落ちてくる様子です。
ヨハネが黙示録を書いた時代に、多くのミサイルが飛んでくる幻を見たとなれば、このように言い表すほかなかったと思います。

14 節「天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり」

恐らく、広島に原爆が落とされた時、爆発によって起こったキノコ雲によって、空は巻物が巻かれるように消えていったことでしょうか。そのような現象を表しているのかもしれませんが。

14 節「すべての山や島がその場所から移された。」

ここで語られているのは、聞いたことがないような、世界的規模の恐ろしい地震です。

★ 黙示録 6 章 15 節－17 節

地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、山や岩に向かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

15 節「地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が」

すべての人々を指しています。

16 節「山や岩に向かってこう言った。『私たちの上に倒れかかって、……私たちをかくまってくれ。』」

山や岩を聖所として拝んでいる人々が、自分たちを「かくまってくれ」と頼んでいる様子です。

16 節「御座にある方の御顔と小羊の怒り」

17 節「御怒りの大いなる日が来たのだ。」

聖書の神様の大きい日である大患難時代が来たのだ、と言っていますが、悔い改める姿はありません。

なぜ、神罰である患難時代が来たことを知っているのでしょうか。人々は、聖書を学ぶことは嫌いですが、預言について学ぶことは大好きです。聖書の預言についての書籍、CD、DVDなどが、大患難時代の財産のごとく残され、人々が学ぶことでしょうか。

★ 黙示録 7 章 1 節－3 節

この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。また私は見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、大声で叫んで言った。
「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」

1 節「四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな

木にも、吹きつけないようにしていた。」

ここで、地の四隅と地の四方ということばが出てきています。これは、これから起こることが、全世界規模であることを表しています。

2節「もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。」

日の出るほうは東を指しています。聖書の書かれた地、中東から見ての東です。極東の日本ではなく、メソポタミアやインドの方向を指しています。

3節「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」

これは「選ばれた神のしもべに印を押してしまうまで、激しい風を吹き付ける大患難を始めてはいけない」と言っていると考えられます。



黙示録 7 章 4 節-8 節

それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、ガドの部族で一万二千人、アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で一万二千人、マナセの部族で一万二千人、シメオンの部族で一万二千人、レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、ゼブルンの部族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千人、印を押された者がいた。

4節「印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。」

私自身、ガテ族、ルベン族、マナセ族、エフライム族、ダン族、ベニヤミン族、レビ族、ユダ族の人々と出会っています。未来の出来事である黙示録 7 章に、各部族の名が記されていることから、神様にとって 12 部族は失われていないことが分かります。

イスラエルの 12 部族の中から、パウロのように力強い伝道師となる人々が、世界の四隅である全世界で、14 万 4 千人選ばれます。この人々は、パウロのように力強く伝道し、全世界にリバイバルをもたらします。



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY